

令和4年度第2回北海道立図書館協議会 議事録

日 時：令和4年12月16日（金）9:20～11:10
会 場：北海道立図書館 研修室
出席者：協議会委員7名、道立図書館職員12名
傍聴者：0名

議事等

1 議題

- (1) 会長及び副会長の選出について
- (2) 令和4年度事業実施状況（中間報告）について
- (3) 第4次北海道立図書館事業推進計画（素案）（令和5年度～令和9年度）について

2 その他

議事録 （○～委員の発言 ●～道立図書館職員の発言）

●（岡部 真希 管理課長）

それでは、議事に入ります。

議長は、会長にお願いするところですが、議題(1)「会長及び副会長の選出について」までは、館長の川端が進行します。

●（川端 雄一 館長）

「会長及び副会長の選出について」は、北海道立図書館協議会条例施行規則第2条の規定により、委員の互選により会長及び副会長を置くことと定めておりますので、会長及び副会長の選出をお願いしたいと思います。

どなたか御発言ございませんでしょうか。

○（松浦 宣仁 委員）

事務局に一任します。

●（川端 雄一 館長）

ただいま「事務局に一任」というお声をいただいたので事務局案を発表してもよろしいでしょうか。

●（岡部 真希 管理課長）

それでは事務局案を申し上げます。前期に引き続いて、会長は河村委員、副会長は福田委員をお願いしたいと思います。

●（川端 雄一 館長）

事務局案のとおり、前期に引き続いて、会長は河村委員、副会長は福田委員にお願いするという事によろしいでしょうか。

それでは、皆さんの拍手をもって確認します。

（拍手をもって承認）

ありがとうございます。

河村会長と福田副会長は、会長・副会長席に御移動願います。

(会長・副会長席に移動)

河村会長・福田副会長から一言ずつ簡単に御挨拶をお願いします。

(挨拶)

ありがとうございました。それでは、ここからの議事進行は、河村会長にお願いしたいと思えます。よろしく願います。

○ (河村 芳行 会長)

それでは、議事に入ります。

皆様の御協力をいただき進めてまいりたいと思えます。

本日の議題は、「令和4年度事業実施状況(中間報告)について」、「第4次北海道立図書館事業推進計画(素案)(令和5年度～令和9年度)について」となっています。

それでは「令和4年度事業実施状況(中間報告)について」説明をお願いします。

● (伊藤 信彦 利用サービス部長)

「令和4年度事業実施状況(中間報告)について」説明

○ (河村 芳行 会長)

ありがとうございました。

「第4次北海道立図書館事業推進計画」も続いて説明をお願いします。

● (伊藤 信彦 利用サービス部長)

「第4次北海道立図書館事業推進計画(素案)(令和5年度～令和9年度)について」説明

「事業推進計画」と「運営計画」の関係についても説明

今後の推進計画策定のスケジュールですが、本日審議していただくとともに、12月27日までにメールで御意見をいただければそちらを参考とさせていただき、3月中旬開催予定の第3回協議会で最終案をお示しし、審議していただきたいと考えております。

また、さきほど「推進計画」と「運営計画」の関係につきましても説明しましたが、第3回協議会では、「令和5年度運営計画」につきましても審議いただく予定です。私からは以上です。

○ (河村 芳行 会長)

ありがとうございました。

ただいま「第4次北海道立図書館事業推進計画(素案)(令和5年度～令和9年度)について」御説明をいただきました。お話がありましたように、この場で御意見をいただきまして、次回の第3回目の協議会で最終案をいただけるということですので、素案について、御質問、御意見はございませんでしょうか。

○ (山口 朱美 委員)

こちらの予定をもう少し早くお知らせしておけば良かったかなと思ながらお話を聞かせていただきました。

4年後、2026年に学校図書館協会全国大会札幌大会を予定しています。

札幌大会という名称ですが、北海道大会というか全道が企画の中心となって、全国から研修の皆様をお呼びする予定です。ただ、ようやく準備委員会が立ち上がったところで、

この後実行委員会へと名称を移していくので、まだまだ具体的な計画等を示すことができませんが、「事業推進計画」の施策目標4にあるように、「ネットワークでつながる図書館」の主な取組の中に「学校図書館に対する運営相談や学校図書館を対象とした事業の充実」もあるので、是非、協力して進めていただければありがたいと思います。内容が明らかとなったところで、そして12月27日までに意見をいただければということだったので、わかる部分はこちらから紹介しながら、是非、2026年に向けて御協力いただき、できることなら事業推進計画に盛り込んでいただけるとよろしいかと思ひます。

○（河村 芳行 会長）

はい。山口委員からお話いただきました。事業推進計画の施策目標が4つになっていますが、前回の計画の6つを4つに整理して項目を統合したということですが、なくなった2つが、4の「ネットワークでつながる図書館～市町村・学校や関係機関との連携～」の市町村や学校や関係機関との連携というところに含まれてきているかと思ひますので、重点的にそちらも進めていただけると思ひます。図書館側からお話いただければと思ひます。

●（西岡 祐子 企画支援課長）

今、河村会長からお話いただいたとおり、現計画であるところの市町村支援、子どもの読書、ネットワークという3つを合わせたものが、新計画の4つ目の施策目標「ネットワークでつながる図書館」ということで案を作成しているところです。その中で、今、お話いただきました学校図書館、子ども読書というところと、それからネットワークというところが該当するかと思ひれます。私共としましても、その繋がるネットワークの機会と捉えていきたいというふうに思ひます。ありがとうございます。

○（河村 芳行 会長）

はい、ありがとうございます。他に御意見等ございませんでしょうか。

○（福田 都代 副会長）

先程の説明で聞き逃した部分の確認をしたい。資料1の（5）「北方資料センターとしてのサービスの充実」の、デジタルライブラリーにえりも町の郷土資料館が加わったということで、他に6か所挙げられたと思ひますが、旭川、湧別、滝上、蘭越、あと2か所あったかと思ひのですが。

●（一戸 泰 北方資料サービス課長）

現在の公開館としては今おっしゃったとおり、旭川、北見、滝上、湧別、蘭越、古平、えりもで7館です。

○（福田 都代 副会長）

あともう1点なのですが、資料2の（1）市町村支援の推進ア（オ）条例設置や図書館建設時の助言や情報提供のところの「条例設置」の「設置」ですが、違和感がありまして、「条例制定」の方がいいのでは。「設置」というと、公共施設の設置などで、お役人用語で設置なのかなと思ひます。法律や条例などは、制定が多く使われるのではないかなと。資料を送っていただいて目を通した時に、少し気になった点です。

●（西岡 祐子 企画支援課長）

条例設置、条例設置とついつい内々で言葉を使っておりましたが、意味としましては図

書館条例制定による、図書館設置という意味ですので、そのようにわかりやすく表記するようにいたしたいと思います。

○（福田 都代 副会長）

もう1点、すみません。障がい者サービスのLLブックなどはあまり出版している会社は多くないので、ニーズがあっても集めるのが大変だと思います。個人的なことですが、ふきのとう文庫で評議員をしていて、大活字本の絵本と漢字の書き方の順番の本などが2、3年前から出ていて、漢字の書き方の本はあまり出版社から出ていないので、学習障がいの子どもにとっては結構使えるのではないかと。1,800円から2,000円で売っているのですが、出版しているところは少ないです。PRになるのですが、福祉関係のLLブックは入手するのに、埼玉福社会くらいしかありません。札幌市中央図書館でもLLブックは、ほんの数冊しかなく、道立図書館はどれくらい所蔵しているかわかりませんが、書店で売っていないものを集めるのも図書館の役割の一つだと思います。

●（工藤 嘉一 資料整備課長）

LLブックにつきましては、今年の9月現在で37冊です。その他に、大活字本コーナーに753冊、一般の点字本が124冊、一般のDAISY（デイジー）資料が43点というような形でサービス用の資料として用意しているところでございます。触る絵本ですとか布絵本については把握していないのですが、最近、窓口で要望もありまして、少し古いものも入れていたりしているのですが、数字としてなかなかとりにくいところもありまして、そういったところも積極的に集中しながらやっていきたいと考えています。

●（西岡 祐子 企画支援課長）

LLブックの話でしたが、大変、数は少ないのですが、市町村の図書館等に貸し出すセットの中に、LLブック数冊、それから布の絵本を数点といったようなバリアフリー資料見本セットというものを用意しておりまして、バリアフリー資料にはどのようなものがあるのだろうかといった市町村に対して、ごく少なくはありますがこのようなものがありますという見本のセットを組んでおります。ただ、今、見本の段階ですので、今後どのようなセットを組んでいくかということは課題だと思いますが、その他に布の絵本につきましては、事業貸出と言いまして、市町村において、例えばイベントや紙芝居やエプロンシアターといったようなセットがあるのですが、その一つとして布絵本も数点ですが御用意しております。これは市町村支援のための資料として備えているものでございます。補足として以上です。

○（小澤 聡 委員）

2点ほど意見をよろしいでしょうか。

専門図書館協議会は、それぞれの機関にぶらさがっている図書室ということで、非常に体制が貧弱で、一人でやっているところもあり、資料は専門的なものがたくさん揃っていますが、なかなかネットワークに繋がらねず、現場の担当者が非常に困っているということがあります。そういうところでは是非、「ネットワークでつながる図書館」ということで御尽力いただけたらと思います。いろいろな活動をされていて素晴らしいと思いますが、具体的なところで御協力を得ながら専門図書館のネットワーク化を進めていきたいと思っています。

私は、（地独）北海道立総合研究機構 産業技術環境研究本部エネルギー・環境・地質研究所の図書室を所管していて、北海道立総合研究機構を代表して参加しているわけではないのですが、技術相談という形で、道内企業や一般の方からの相談にお答えしていて、

ここで言うと、レファレンスサービスの充実ということになると思いますが、道立図書館のレファレンスサービスと北海道立総合研究機構の技術相談を組み合わせると、より充実したサービスになると思います。パスファインダーなどを見せていただくと充実した情報が載っていますが、北海道立総合研究機構の絡みでいうと、少し情報が古く、協力できることがあるので、それも含めて是非協力してやっていけたらと思います。

また、いろいろなイベントも、我々北海道立総合研究機構と一緒にやれるのではないかと思います。目標指標⑱、「他機関や民間企業・団体、ボランティア等との連携による事業の実施機関数」とありますが、我々専門機関との連携をよろしくお願いします。

○（河村 芳行 会長）

道立図書館から何かございますか。

●（桑原 裕子 一般資料室長）

いろいろ前向きな御提案をいただいて、大変ありがたく思っているところです。専門図書館協議会の関係も、本当に何か具体的に一緒に何かやれる方向を模索しながら、それを運営計画に落とし込めるような形で御相談を進められればありがたいと思っております。

北海道立総合研究機構のお話も、パスファインダーだとかを見ていただいてありがとうございます。そういった時の情報更新ですとか、そういったところの御協力等もこちらからもお願いしたいところです。今後ともよろしく願いいたします。

○（河村 芳行 会長）

ありがとうございます。このたび新しく参加されています林委員、いかがでしょうか。

○（林 哲哉 委員）

私は図書館を一般的に利用している人間で、図書館の図書館という役割などについては全く詳しくなくて、道立図書館がいろいろと実施されているのだと認識を新たにしました。その中でも電子書籍の関係ですが、これから冊数を増やしていくと思うのですが、送っていただいた資料によると、実用的なものが主だと思いますが、これは電子書籍を利用する仕方に制限があって難しいのかなと思いますが、文芸書は使うことができるのかということと、アクセスしている間は調べられるけれども、例えば一般図書を借りるような形で、一週間利用できるのでしょうか。

それから、来館者数などいろいろな目標指標を持っておられますが、私も非常に近くに住んでいながら、この間初めて道立図書館を訪れました。いろいろなイベントや、「図書館まつり」も知りませんでした。どういう形で知ればいいのかというのはホームページにアクセスすることがメインなのかもしれませんが、もっと知ることができる方法があるのかなのか、或いは考えておられるのか教えていただきたいです。

●（工藤 嘉一 資料整備課長）

電子書籍について私から御説明します。文芸書の類いもあることはありますが、他社システムに比べまして、私共の採用しています「KinoDen」は、学術書などを中心とした電子書籍システムということで、総体としてはとても少なくなっておりますので、いわゆる一般的な読み物はとても少ないという中で、一部文学作品で全集的なものを取り入れたりなどしているのですけれども、私共が求められているところとしてやっぱり調べるための図書館の部分だとかそういったところかなというふうに考えまして、今年度の4月1日からのスタートの段階での選書について、今後もそのような形でいこうと考えています。実用書ですとか電子辞書、あとは学校の現場でも活用できるような資料というところを中心

に選書していこうということで考えております。ということではあるのですが、やはり総体としても少ないですし、そこに主力を置かない選書をしているということで御承知おきいただきたいと思っております。

貸出しという方法でいきますと、もし、誰かが使っている場合は返却されるまでの2週間なら2週間、誰もアクセスできない状態になりますが、「KinoDen」のシステムにつきましては、貸し出しということではなく、閲覧という方法を使っておりますので、誰も見ていない状態ですと、いつでもアクセスができるので、例えば見ている状態でそのままちょっとパソコンやスマホから離れても、ずっと使いつ放しにならないように、15分全くページをめくったり、スクロールしていない状態だと自動的に読んでいる状態を解除されるようになっているので、貸出しのシステムよりアクセスしやすいのではないかと考えております。あと各コンテンツごとに、それぞれ金額が高くなっていくのですが、1アクセスまで、2アクセスまで、3アクセスまでという形で用意されていますが、なるべくコンテンツを多くしたいということで私共は基本1アクセスのものを購入しております。ただ、それについても、試読という機能がついていまして、実は当館で選んでいないコンテンツ以外すべて可能なのですが、大体、頭の30ページくらいまででしたら他の誰かがアクセスしている状態でも読むことが可能となっています。ですから貸出しのタイプよりはコンテンツのアクセスへの確実性は高いのかなと考えております。統計的にも数字を出せるようになっておりまして、使ったコンテンツのうちの試読に回ってしまった率は、ならしてもアクセスの0.5%程度しか重なり合っていないということなので、大体の方は、スムーズに読みたい時に読めているという状況というふうに判断しています。

●（加藤 ひろみ 一般資料サービス課長）

インターネット予約貸出サービスを利用いただきましてありがとうございます。それからイベント等について、なかなかご存じなかったということで、広報が不十分だったと反省しております。図書館まつりの他にも、普段は入ることのできない書庫ツアーですとか、展示も年に何度も入れ替えしてやっていますし、先日、江別保健所の保健師さんを講師にお招きして、健康講座も開催しています。館内の広報の他に、市町村の図書館にチラシやポスターを貼ってもらったりだとか、ホームページでもお知らせ、フェイスブックやツイッター、新聞、この近郊であれば『まんまる新聞』ですとか、『北海道新聞』の江別版に載せたりしてはいますが、なかなか知っていただけないということで、もっともっと工夫しなければいけないというふうに思いました。逆にこうしたらわかりやすいのではということがあるでしょうか。

○（林 哲哉 委員）

目につきやすいところに情報が載っていることなどでしょうが、私が知らないだけで十分にやられていると思います。思いついたことがあればお知らせします。

●（加藤 ひろみ 一般資料サービス課長）

ありがとうございます。私達ももっともっと努力して、広く知っていただけるようにしていきたいと思っております。

●（川端 雄一 館長）

補足で御説明したいと思っております。私は当館に来て1年目なのですが、着任にして感じていることは、せっかくいろいろなイベントをやっても周知が苦手というか、下手な部分が正直あります。そこは私も含めて、今後改善しなければいけない部分だということで反省していますが、できるかできないかは別として、私は新任の図書館長なので、研修も

受けまして、いろいろな広報活動の方法などを学んでいますが、その中で、例えば、地元のFM局と連携して図書館のいろいろなイベントや講座などをPRする取組などをやっている図書館などもありますし、年齢によってはアクセスが難しいのかもしれませんが、現在も当館でもやっておりますSNSやツイッターやフェイスブックなどを使ったPR活動、興味を持ってもらえるような写真を使って、いろいろとうまくPRしているような図書館などがありますので、すぐできるかどうかは、今後の我々の取組次第なのですが、そのような好事例などを参考にしながら、今後ともPR活動を進めていきたいと思っています。

○（河村 芳行 会長）

ありがとうございます。では、公募委員の吉田委員はいかがでしょう。

○（吉田 雅代 委員）

何年か前に、道立図書館は一般人でも利用できることに気がつき、それからボランティアをやっているのですが、こんなに立派なのに、もっと皆が利用した方がいいのに、何故だ、と思っていました。隣の森三愛高校の図書館に勤務していた時に、高校の図書館にはない本が道立図書館にはあって、「道路を渡ったら図書館があって、そこですぐカードが作れるから」と生徒に言うと、「そんな所に図書館があるの？」という生徒のリアクションがあったのですが、すぐ借りに行ってくれて、それからは、受験の本だとか、就職の本を借りておいでと勧めていましたが、とてももったいないことだと思いました。『北海道新聞』に入っている北海道の広報誌などで、道立図書館のことを掲載したことがあったかと。そういうことをうまく使っていく。大麻駅にポスターを貼って、行き方を書いたりなどして、何かうまい具合に周知ができて利用してもらえるといい、と日々思っていました。

資料6の「資料構成・利用状況・資料費予算の状況」を見ましたが、全国平均の半分ほどの予算であるのに頑張っている。頑張っているけれども、もっと周知すれば入館者も増えて、いろいろな資料が充実して、「予算がなくても北海道は頑張っている」素敵な図書館ができると思います。

○（河村 芳行 会長）

ありがとうございました。公募委員ということで応募いただきましたので、生の声が聞けて良かったと思います。公募委員の2人からお話をいただきましたが、道立図書館の役割というのがいまひとつ道民はわかっていないというか、「図書館の図書館」というイメージが強いかもしれませんが、非常に距離的に遠いので、179市町村を見ていく図書館としては大変かと思いますが、お話を伺っていると活路は電子書籍にあるのかなという気が非常にしました。先ほど林委員からの御意見、質問というか、私も前回の協議会で電子書籍のアクセスについて質問させてもらったのですが、使ってみて、業者が2つくらいあって、1週間、貸出しにする形は札幌市が導入していますが、道立図書館が導入した「KinoDen」は閲覧方式で、どちらも使ってみて、最初は1週間で貸出ししてもらうのが利用者にとっていいという気がしていたのですが、実は読みたい本がしばらくの間アクセスできない状況というのがあって、「KinoDen」は意外とスムーズに使うことができ、先ほど資料整備課長からお話いただいたように問題は感じませんでした。1アクセスでたくさんのお本を用意して、吉田委員がお話された広報などに力を入れて、紀伊國屋書店で登録会をやったということで、先ほど報告を受けていましたけれども、物理媒体の書籍を借りるということは、道立図書館のある江別市まで来るということで利用者にとって障害があるのですが、利用者カード1枚で道立図書館の電子書籍も使えますというのは非常に価値の

あるサービスになるのかなという気がします。12月の20日に桑原室長が来て下さるということで、武蔵女子短期大学との連携で、学生・教職員に利用者カード登録会をしますということをお話は案内したのですが、大変好評で、喜んでおります。各市町村の図書館や大学図書館で、登録するのにここまで来なければという障害もあると思います。このような方法でサービスを広げていくと、広がるのかなという気がしております。20日よろしくお祈りいたします。長く話してしまいましたが、松浦委員、いかがでしょうか。

○（松浦 宣仁 委員）

第1回協議会に出席できず申し訳ありません。何点か質問しようと思っておりました。法の施行により高齢者・障がい者サービスの充実がより一層求められていて、現在あるそれらの様々な施設以外に、どんなものが考えられるかと質問しようと思っておりましたが、教えていただいて、勉強させていただきました。もう一点、コロナ禍の小中高の学校での利用が一体どうなっているのか想像がつかないので、現場というか学校関係がコロナ禍によって来館できない状況や人数の制限だとか、様々な取組に何らかの影響があると思うので、そういう状況が知りたいです。また、市町村についても、コロナ禍で利用がどのように変わってきているのか知りたいです。

●（西岡 祐子 企画支援課長）

コロナ禍での影響というのは掴みきれていない状況です。昨年、学校図書館の運営相談に行った時に、昨年度段階で、椅子席を島のように向かい合って座れるような形にしているところが多いのですが、一方向に座るように置いているというところに行ったことがあります。それ以外に利用としてどうなのかという辺りは掴みきれていないところです。市町村の図書館においては、読み聞かせ会などに影響が出ていて、会を控えたりですとかそういうところに影響が出ているのかなと思います。

○（山口 朱美 委員）

札幌市立和光小学校の学校図書館を毎日目にはしているのですが、現場の状況ということでいくつかお話をさせていただきます。

コロナ禍に入って3年。3年前と今では大分状況が変わってきていると感じます。初めの頃は、距離をとり、本を触るにしてもきちんと拭いてからとか、必ず手を洗ってという指導をしていましたが、最近は大分緩和されている感はありまして、通常の図書館に戻ってきている感はあります。

ただ、内容的には閲覧または読書することについては、もしかすると、コロナ禍ということもあって、以前より増えてきている気がします。一方で、昨年度から一人一台端末を手にとるようになって、検索や調べ学習などだと、図書館というよりは手元にあるタブレットを開いてしまうのも現状かと思っています。読み聞かせなどは、未だに対面で読んで聞かせてもらうのは抵抗があるところで、和光小学校の例を挙げれば、読み聞かせのお母さんが読んでいるところをVTRでとって、それを流すという方法を工夫しながら行ったりしていました。

○（河村 芳行 会長）

ありがとうございました。他に説明などありますか。

●（桑原 裕子 一般資料室長）

市町村の関係で、若干の補足と言いますか、学校でも少しずつ変わってきているというお話でしたが、市町村でも取組として閉館していたという状況から始まっていますが、当

館もですが、電子書籍を導入する図書館が増えたというのは、コロナ禍の影響かと思いません。道内では今、13館が電子書籍サービスを市町村で取り入れていると把握しています。その他に、ちょっとした工夫として、滞在時間を短くとか、本をあまり選ばないというのはおかしいのですが、男の子セット、女の子セットなどセットものをたくさん作っておいて、お母さん方がぱっと借りていくような工夫をして、滞在時間を減らす工夫をしていらっしゃる場所もあったりと、どうやったらコロナ禍でも使っていただけるのかということ市町村なりにいろいろと工夫をしていると聞いております。

○（河村 芳行 会長）

電子書籍の話ですが、市町村と重複しない形で協力して収集する。例えば道立図書館にある書籍と、コンテンツは多くはないと思うのですが、予算も少なくなっていることだし、だぶって買う必要があるのかなと思ったところです。これは今後の検討になるのかもしれませんが、どこが何を持っている、どういう書籍が契約されているのかということ道立図書館でまとめていくとより良いサービス展開できるのではという気がしました。

他はどうでしょうか。全体を通してで構いませんが、一通り御参加いただけている方々の発言をいただきましたが、最後に何かございませんか。

素案ということでお示しいただいていますが、最終案を示すことができるように、これから準備いただくのですが、先ほどお話がありましたように12月27日までに入力してもらいたいことがありましたら、御意見をいただければと思います。他に御意見はございませんでしょうか。

○（林 哲哉 委員）

道立文書館との初の連携事業のように、他のいろいろなところと事業を広げていく可能性があるのかどうか。そういうところで情報が得られれば道立図書館に対する見方が変わるのではないかと思います。江別だけで言っているかわかりませんが、例えば、セラミックアートセンターだと陶器のことに関連して、道立図書館で何か話題にしながら、人集めだとかそんなことができたかどうかとお話させていただきました。

●（中田 こずえ 北方資料室長）

当館と道立文書館とは同じ建物の中にありまして、お互いの資料を使って初めての連携イベントを開きました。普段からお互い勉強会的なことをしたりだとか、レファレンスという言い方をしますが調査相談の対応でも、内容によって、当館で調べるよりも文書館の方が適しているとか、文書館で調べるよりも当館の方がいいとかそういうやりとりがあります。展示での連携ということですが、例えば図書館まつりで埋蔵文化財センターとは、体験イベントと当館の資料展示などそういう組み合わせで、事あるごとに何かしら連携するという形で心がけています。北方資料ではないのですが、道立近代美術館との連携や何かしらの連携というのを意識して行っています。

○（河村 芳行 会長）

他にございませんか。

●（山崎 純平 総務企画部長）

事務局からです。12月27日までに御意見をお願いしたのですが、この後、担当から皆様にメールで依頼文書をお送りし、そちらに御意見をいただければと思います。それから意見については、本日欠席された委員の皆様にも文書をお送りして、意見をいただくことを予定しておりますので申し添えます。

○（河村 芳行 会長）

意見も出尽くしたので時間はまだありますが、これで。

●（川端 雄一 館長）

すみません。少し時間があるということなので、この場は委員さんからいろいろな御意見をいただく場ですので、会長、副会長は大学の先生ということもありまして、感覚的な部分でお聞きしたい。

資料4の9ページになりますが、「ネットワークでつながる図書館」という施策目標、こちらの部分で先ほどから北海道立総合研究機構の方から専門図書館との連携だとか、市内のいろいろな文化施設などがあるのでそういう機関と連携が必要ではないかということで御意見をいただきまして、我々も黙って待っていても物事は始まりませんので、いろいろと出向いて行って連携できるような機関と、今後いろいろと連携を深めていきたいなと思っております。その中で、9ページの主な取組のところにポツが5つほどありますが、1番下のポツに「雑誌スポンサー協力企業等民間企業や団体のほか、大学や専門機関、地域やボランティアとの事業や展示というものを今後取り組みます」ということを書いておりますが、大学という観点でいうと、我々は既にフィールドワークですとかインターンシップなど大学生の受け入れは行ってございまして、大学生もその体験の一環として、図書館まつりにおいて、小さな子供達を対象にお話をやっていたりしています。

京都など他府県のいろいろな事業推進計画を見ますと、京都では大学と連携して、大学生が区立図書館応援チームを結成して、図書館の事業の企画立案ですとか、運営の支援などそういう連携を図っています。それで我々も今回の事業推進計画の中で、図書館の活動などに興味を持っている大学生がその応援団になっていただいて、ボランティアという形になるかわかりませんが、図書館をPRしていただくような動画を作成していただいたり、チラシを作っていたり、事業の企画ですとか運営面で、授業の支障のない限り、お手伝いいただけるような連携を図ることができないか考えています。これは我々の一方的な思いですが、普段、大学にいらっしゃる先生、本日は2人、来ていらっしゃいますので、そういうことを企画した場合に、可能かどうかということをお教えいただきたいと思っております。質問させていただきました。

○（福田 都代 副会長）

道立図書館は、大学からは遠いので。図書館計画で道議会図書室を見学したのですが、3人しか見学しませんでした。学生の時間割をみると結構びっしりと入っていて、ボランティアをする時間がないのです。以前は、読み聞かせボランティアをどこかでやっている学生がいたのですが、最近はコロナ禍でリモートになり、レポートもテストも多くなって、忙しそうです。他の大学のことはわかりませんが、以前、北海道情報大学で教えていまして、そこからニュースレターが今も送られてきますが、学生のいろいろな活動を紹介していて、メディア系の学部で動画を作ったりといった活動を熱心にやっています。多分、江別市とコラボして何かやっていたような記憶があります。ホームページや情報発信などを学生の感覚で見てもらうのは、北海道情報大学あたりが近くていろいろな示唆を受けられるのではと思います。大学も官僚組織なので、依頼を学長名で出すのがよろしいのではないかと。北海道情報大学の学生は、自分で動画を撮ったりできると思いますのでそちらに打診してみてもどうかと思います。

私は北海学園大学で、図書館学課程しか教えていないのですが、夏休みの地域研修を実施してみても、アルバイトが忙しいなどで参加者がいません。要は経済的に困窮している学生が多いので余裕がないのです。ボランティアは時間的にも経済的にも余裕のある学生

しかできないのです。見学会を実施しようとしても、なかなか。

●（川端 雄一 館長）

ありがとうございます。

○（河村 芳行 会長）

やはり距離だと思います。福田先生もお話になっている北海道情報大学など近くの大学との連携があると思います。石狩でしたら、藤女子大学がやはり連携していますし、武蔵女子短期大学であれば北区新琴似図書館との連携をしていますが、やはり道立図書館となると時間や交通費がかかるということで、実習をお願いする時にも江別在住の学生であれば江別市情報図書館で実習したいと。道立図書館の役割で「図書館の図書館」があつて、たくさんの蔵書を地域住民に開放しないのはもったいないということで市町村立図書館と同じようなサービスも付加したと感じています。そちらのお二人に今回から公募委員になっていただいています、いい環境だと思います。道立図書館を利用できるし、江別市情報図書館も利用できる、江別市民がどのような使い分けをしているかということにヒントがあると思います。また、学生に道立図書館との連携ということになると、なかなか難しいのかなと感じていまして、逆に地域の図書館、地元の図書館との連携や大学図書館があつて、大学生は大学図書館を使って下さい、市町村の住民は地域の図書館を使って下さいということで、道立図書館は先ほどの話になりますが、これからの活路としては電子書籍を自立させていけば市町村の図書館も利用しやすくなるという、やはり北海道は広いですから距離の障害を乗り越えた形で道立図書館がリーダーシップをとっていくことかなと感じております。大まかな言い方で回答になっているかどうかわかりませんが、よろしく願います。

●（川端 雄一 館長）

ありがとうございました。今、河村会長と福田副会長からいろいろな御意見をいただきましたので、そういったことを参考にして、どこまで可能なかということは今後検討したいと思います。どうもありがとうございます。

○（河村 芳行 会長）

館長から御質問をいただきまして、お答えしたところですが、丁度良い時間になりました。以上で予定された議題の審議を終了します。先ほどお話がありましたように、メールで書式がくるということですので回答をいただき、次回、資料が配付されると思いますので、御自分の関係部分に目を通して、協議会に参加いただければと思います。今日は皆様から御発言をいただきましてありがとうございます。これで終了させていただきます。